

評価委員会県立大学部会での主な意見

○平成 28 年度第 1 回評価委

【評価指標：科研費の出願件数】

- ①「金額で評価する方が分かりやすい。」「出願件数であれば、有資格者のうち、何人出しているかという比率で見るということだと思う。」「どのくらいの割合で入っているのか見る方が適切ではないか。」「出願できる権利を持っている人がどれだけ出したか、そういう指標の方が評価しやすいかもいけない。」

【公開講座】

- ②公開講座に参加して、「実際に何かしらの行動を起こした人の声が聞こえてくることが必要だと思うが、アンケートで満足かどうかという答えだけでは見えてこないので、アンケート自体を工夫することも1つの方法だと思う。かなり工夫しないと、参加者が何を望んできて、次の行動を起こそうとしているか見えない。そういうものが見えてくると、次に大学が求められているものにつながっていくと思う。そういうところをさらに期待したい。」
- ③「アンケートを例として「今後聞きたいようなテーマ、知りたいテーマについてお知らせください。」というような質問項目をつけて、それに応えるような形で講演会を作っていく方向に、将来つながるような形で講演会を運営していただきたい。」

○平成 29 年度第 1 回評価委

【評価指標：科研費の出願件数】

- ④「多くは出せないという側面もあるので、本当にいいのは、例えばそれこそ代表研究者として、科研費を申請している数とか、比率の方が本当にいい評価かもしれない。」
- ⑤「新たに中期目標を作るときの課題だと思うので、「科研費出願件数」を削除するとの意見ですけど、それでよろしいですか。」

○平成 29 年度第 2 回評価委

【大学院の入学者数の増加】

- ⑥「大学を卒業した人たちに対して、大学院を非常に魅力的なものだとアピールできればいいと思う。その一つの可能性として、生涯学習に参加する人たちに大学院に引き付けるようなことは考えられないでしょうか。」
- (大学) 何も現職の社会人に限る話ではなくて、リタイアした方も、人口的なボリュームが厚い部分ですので、そういったところもうまく取り組んでいく、そのきっかけ

けとして、例えば、生涯学習講座をスタートするという事などは考えられるところ
です。

【論文の引用件数等】

- ⑦「目標値が535件、実績値が5,345件で、999%を超えているわけですね。これは
どういふことであつたのか、そもそも目標値が低く設定されすぎたのかもしれない
のですが。(中略) 次回の目標設定の時に議論するかもしれませんので」

○平成30年度第1回評価委

【過去5年間の引用件数の採用】

- ⑧「つまり、昨年、引用されたものであれば、昨年度の評価となると思うのですが、
それが4年まで含まれると、これでいいのでしょうかという感じがするのです。」
→(事務局) 過去5年間ということで、第2期はやってまいりましたので、第3期に
向けての検討課題かと思っております。

【産学連携プロジェクト】

- ⑨「業務実績を書いていただく際に、新規プロジェクトがあれば、新規プロジェクト
を書いていただけるとわかりやすい。要は新しいプロジェクトをやるのは非常に難
しいので、それを実現されているのであれば、評価に値するなと思って、(中略) 次
回からでも新規プロジェクトがあれば、新規と明示していただければありがたいで
す。」

○令和元年度第2回評価委

【フィールドワーク等の推進】

- ⑩今後、フィールドワークの授業を体系的にやっていった方がいいと思う。今後、企
業とのつながりを強めて、国際経済学部を毎年学ばせるということをしっかり
やった方がいい。一方で、既存の国際関係学部でも取組をしていった方がいいと思う。
新潟大学も創生学部を作って取組を進めたように、県立大学でも取り組んでほしい。

【TOEIC (人間生活学部)】

- ⑪「目標値が、設定の経緯は分からないが、相当低い気がする。」「次のフェーズの基
準をどうするかというところにフィードバックした方がいいかと思う。」「TOEIC ス
コアを人間生活学部にも取り入れないといけない必然性は」
→(事務局) 大学の基本理念の3つのうち、一つが「国際性の涵養」ということで人
間生活学部ではあるが、なにがしか入れるというものがあつたのかと思う。
・「次のサイクルの指標は少し減らしてもいいのかもしれない。ターゲットによって変
わってくるのであれば、大学院の方も英語での授業に特化しすぎると入学者がこない

ということで軌道修正しているのです、学部生の目標もそういう軌道修正もあり得ると思う。」

【英語以外の語学力】

⑫「ロシア語や韓国語なども目標値に入れていってもいいのではないかと。」

【受託・共同研究数の指標】

⑬「私の印象だと、受託・共同研究数はそれほど大きな額ではなくて、だいたい県とか企業とかから年度で依頼が来るようなものなので、かなりバラつきは外部要因によって決まるというか、いろいろな事情があるので、おそらく研究としてはそんなに大きな項目ではないのかなと。むしろ、ここで言うと、研究費でも、科研費にちゃんとだしているか、ちゃんと通っているかということの方をよく見た方がいいと思う。そういう意味では、研究としては相対的にそんなに大きな要素ではないと思う。」

○令和元年度第3回評価委

【TOEIC受験者が少ないこと】

⑭「(受験料が) たぶん1万円弱くらいだったかという気がするが、それなりに学生にとっては負担が大きいかと。こういった経済要因も影響しているかと思うので、あらかじめ言っておけばよかったのかもしれないが、少しそこも議論しておいてくだされば。」

【起業支援・アントレプレナー講座】

⑮県立大学ではゆくゆく県内で活躍してほしい、そういう学生を育てるのが、一番大きな目標かと思うのだが、おそらく学生としては、自分の将来として勤め人としての将来像しか思い浮かばない方も多いと思う。起業支援とかアントレプレナーとか、事業主として生きていく道もあるということを大学として、選択肢の一つとして学生に教えていくことも必要かと思い、そういう質問であるのだが、その取組については今のところ特段ないということでしょうか。」